＜かけはし７月号＞

安全運転支援装置導入の補助制度を県に求める

＜アクセルとブレーキの踏み間違え防止装置＞

６月２５日、日本共産党の大橋議員は質問で、車の後付け踏み間違い防止装置（アクセルとブレーキの踏み間違え防止）の、導入支援を県として行うよう求めました。

アクセルの踏み間違えによる人身事故が県内で相次いでいますが、県警のまとめでも、今年に入ってから、４月下旬までに前年同期の２倍近い９件の事故が発生し、１人が死亡、１６人がケガを負っていています。

このような事故は、近年は、年間で３０～４０件程度発生しており、県警は踏み間違い時に急発進を防ぐ装置を車に設置するなど対策を呼び掛けています。

「免許を返したくても車がなければ生活できない」という現状がある中、安全運転支援装置を導入するための補助制度を県が創設することは重要です。県内では、国土交通省の性能認定を受けている車の後付け踏み間違い防止装置導入支援を鏡石町・天栄村・小野町・広野町の４町村でおこなっています。

支援額は、２万円～４万円程度の補助ですが、県の支援で一挙に広げていくことが重要です。

国土交通省が踏み間違い防止の車載義務付けを新車を対象に来年６月をめどに道路運送車両法を改正して義務化する見通しとしていますが、既存の車の取り付けには支援が必要です。